

内科学第二講座 講座臨床腫瘍分野

1. 【教育】	
1-1. 到達目標	抗がん剤・分子標的薬などの薬物を使ってがんの治療を行うとともに、外科治療・放射線治療を組み合わせた集学的治療や緩和治療などの「がん治療」のトータルコーディネーターの役割を担っていくこと。
1-2. 現状説明	少ない人員でいかにその目標を達成するか、時に難しいことがある。それを如何に行っていくかが課題となっている。
1-3. 点検・評価	教授をはじめ全員で、努力している。
1-4. 目標・改善方策の達成度	まずは、目につく目標を言葉にして、努力することから行っていく。
2. 【研究】	
2-1. 到達目標	分子生物学の進歩に伴い発がん・増殖・転移等のメカニズムを解明し、増殖・転移の抑制と薬物の関与を明らかにすること。
2-2. 現状説明	現状で、どのような分子が関わっているのか、少しずつ理解が深まっている。
2-3. 点検・評価	まだ通過点でしかなく、今後もっと理解を深めねばならない。
2-4. 目標・改善方策の達成度	まずは、科研費を申請して獲得していくこと。
3. 【診療】	
3-1. 到達目標	患者さま一人一人に、良いと思われる診療を行うこと。
3-2. 現状説明	大雑把には、患者様に満足して頂いているが、小さな点が抜けているように感じる。
3-3. 点検・評価	スタッフで、患者様の満足度を、まずは評価していく。
3-4. 目標・改善方策の達成度	一人一人に満足のいく診療を心がけること。
4. 【社会貢献】	
4-1. 到達目標	がんと闘う姿勢、がん終末期治療のあり方など、市民講座などを使って問うていく。
4-2. 現状説明	以前は盛んにおこなったが、最近停滞している。
4-3. 点検・評価	市民講座のアンケートなど評価の参考にしたい。
4-4. 目標・改善方策の達成度	まだまだ改善点があるので、今後参考にしたいと考えている。

業績分類	著者・筆者・発表者・発明者・受賞者 等	論題・章題・演題・学会賞名 等	掲載誌・書名・巻・号・頁・PMID 学会名・開催地・年月 等	Impact Factor ・四分位 (Quartile)	刊行状況	研究情報備考
1-1. 論文/原著 (査読有)	Kuramoto K, Yamamoto M, <u>Suzuki S</u> , <u>Sanomachi I</u> , Togashi K, Seino S, Kitanaka C, Okada M.	* Verteporfin inhibits oxidative phosphorylation and induces cell death specifically in glioma stem cells	FEBS J. 2020 May; 287(10):2023-2036. PMID: 31868973	IF=4.392, Q2		B
1-1. 論文/原著 (査読有)	<u>Suzuki S</u> , Yamamoto M, <u>Sanomachi I</u> , Togashi K, Sugai A, Seino S, Okada M, <u>Yoshioka T</u> , Kitanaka C.	* Doxazosin, a Classic Alpha 1-Adrenoceptor Antagonist, Overcomes Osimertinib Resistance in Cancer Cells via the Upregulation of Autophagy as Drug Repurposing	Biomedicines. 2020 Aug;8(8):273. PMID: 32764319	IF=4.717, Q1		
1-1. 論文/原著 (査読有)	Togashi K, Okada M, <u>Suzuki S</u> , <u>Sanomachi I</u> , Seino S, Yamamoto M, Yamashita H, Kitanaka C.	* Inhibition of Retinoblastoma Cell Growth by CEP1347 Through Activation of the P53 Pathway	Anticancer Res. 2020 Sep; 40(9): 4961-4968. PMID: 32878784	IF=1.994, Q4		
1-1. 論文/原著 (査読有)	Kobayashi N, Omae K, Horita Y, Ueno H, Mizuno N, Uesugi K, Sudo K, Ozaka M, Hayashi H, Okano N, Kamei K, Yamaguchi A, Kobayashi S, <u>Suzuki S</u> , Ishihara S, Uchiyama T, Todaka A, Fukutomi A	FOLFIRINOX as second-line chemotherapy for advanced pancreatic cancer: A subset analysis of data from a nationwide multicenter observational study in Japan	Pancreatolgy. 2020 Oct; 20(7):1519-1925. PMID:32972834	IF=3.629, Q2		B
1-1. 論文/原著 (査読有)	<u>Suzuki S</u> , Okada M, <u>Sanomachi I</u> , Togashi K, Seino S, Sato A, Yamamoto M, Kitanaka C.	* Therapeutic targeting of pancreatic cancer stem cells by dexamethasone modulation of the MKP-1-JNK axis	J Biol Chem. 2020 Dec; 295(52): 18328-18342. PMID: 33115754	IF=4.238, Q2		B
1-1. 論文/原著 (査読有)	Kuramoto K, Yamamoto M, <u>Suzuki S</u> , Togashi K, <u>Sanomachi I</u> , Kitanaka C, Okada M.	* Inhibition of the Lipid Droplet-Peroxisome Proliferator-Activated Receptor α Axis Suppresses Cancer Stem Cell Properties	Genes (Basel). 2021 Jan;12(1):99. PMID: 33466690	IF=3.759, Q2		B
1-1. 論文/原著 (査読有)	<u>Tomomi Sanomachi</u> , Toshio Hashimoto, Junichiro Haga, Yoshihiro Sato, Hirotaka Kanno, Junko Sato, Haruka Murata, Kyoko Fujikura, <u>Tadahisa Fukui</u> , <u>Takashi Yoshioka</u>	Patients with unresectable hormone-positive human epidermal growth factor receptor 2-negative breast cancer who were successfully treated with palbociclib: A case report	米沢市立病院医学雑誌. 2020年3月;39: 25-31			
1-3. 論文/症例報告 (査読有)	Togashi K, Nishitsuka K, Hayashi S, Namba H, Goto S, Takeda Y, <u>Suzuki S</u> , Kato T, Yamada Y, Konno E, <u>Yoshioka T</u> , Yamakawa M, Sonoda Y, Suzuki T, Yamashita H.	* Metastatic Orbital Tumor From Breast Ductal Carcinoma With Neuroendocrine Differentiation Initially Presenting as Ocular Symptoms: A Case Report and Literature Review	Front Endocrinol (Lausanne). 2021 Feb;12:625663. PMID:33692758	IF=3.644, Q2	E Only	B
1-4. 論文/著書 (査読有)	鈴木尚樹	第2章こんなとき、こんなシチュエーションでは、何をどう投与する？疼痛を抑えたい 1. オピオイドが効きにくいときは？ (難治性疼痛) ⑦がん治療に伴う疼痛 化学療法関連疼痛	蓮尾英明 編集, がん治療医が本当に知りたかった緩和ケアのレシピ. 東京: メジカルビュー社. 2020年9月:137-139			B
2-2-iii. 学会報告/国内学会/一般演題 (査読有)	鈴木修平, 高橋鴻志, 渡邊要, 福井忠久, 吉岡孝志	当院のがんゲノム検査における遺伝カウンセリング室との関わり現状. ポスターセッション	第44回日本遺伝カウンセリング学会学術集会, 沖縄 (WEB開催); 2020年7月			
2-2-iii. 学会報告/国内学会/一般演題 (査読有)	鈴木修平, 高橋鴻志, 渡邊要, 吉岡孝志, 國分聡子, 久連山愛	模擬患者を用いたがん告知演習を含む高校生向け癌臨床教育プログラムにおける検討と考察. ポスターセッション. 腫瘍①	第117回日本内科学会講演会, 東京; 2020年8月			
2-2-iii. 学会報告/国内学会/一般演題 (査読有)	藤崎素子, 鈴木修平, 渡邊要, 高橋鴻志, 福井忠久, 吉岡孝志	山形県内における保険内・保険外のがんゲノム検査の現状とその差異. ポスターセッション 腫瘍②	第117回日本内科学会講演会 医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ2020, 東京; 2020年8月			
2-2-iii. 学会報告/国内学会/一般演題 (査読有)	木村恵理, 鈴木修平, 渡邊要, 福井忠久, 高橋鴻志, 吉岡孝志	サイトケラチン7, 20など日常的に行う免疫染色の原発不明癌の予後予測における有用性の検討. ポスターセッション 腫瘍③.	第117回日本内科学会講演会 医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ2020, 東京; 2020年8月			
2-2-iii. 学会報告/国内学会/一般演題 (査読有)	鈴木尚樹, 渡部秀子, 邨野千尋, 奥山恵, 深瀬龍, 神谷浩平	緩和ケア病棟の急性期化により、食事提供機会は減ったのか?	第25回日本緩和医療学会学術大会, WEB開催; 2020年8月			B

業績分類	著者・筆者・発表者・発明者・受賞者 等	論題・章題・演題・学会賞名 等	掲載誌・書名・巻・号・頁・PMID 学会名・開催地・年月 等	Impact Factor ・四分位 (Quartile)	刊行状況	研究情報備考
2-2-iii. 学会報告/国内学会/一般演題 (査読有)	鈴木修平, 高橋鴻志, 渡邊要, 福井忠久, 吉岡孝志	癌性腹膜炎を主たる病変とする原発不明癌のBRCA検査実施例の検討. 一般演題 15 遺伝性乳癌卵巣癌2.	第26回日本遺伝性腫瘍学会学術集会, WEB開催; 2020年8月			
2-2-iii. 学会報告/国内学会/一般演題 (査読有)	鈴木修平, 齋藤陽介, 神田悟, 鈴木尚樹, 高橋鴻志, 渡邊要, 福井忠久, 吉岡孝志	当科における原発不明癌患者へのゲノム検査の後方視的検討. ポスターセッション 内科/その他 P-429(e-ポスター)	第58回日本癌治療学会学術集会, 京都; 2020年9月			
2-2-iii. 学会報告/国内学会/一般演題 (査読有)	佐野町友美, 鈴木修平, 岡田雅司, 吉岡孝志, 北中千史, 山本雅大	* 古典的利尿剤であるスピロノラクトンががん細胞のサバイビン発現を低下させ非DNA 損傷性抗がん剤に対する感受性を高める	第79回日本癌学会学術総会, 広島; 2020年10月			
2-2-iii. 学会報告/国内学会/一般演題 (査読有)	佐野町友美, 齋藤弘毅, 高橋鴻志, 渡邊要, 鈴木修平, 福井忠久, 吉岡孝志	重篤なニボルマブ関連大腸炎を生じた進行胃癌症例ヘインフリキシマブ, 顆粒球除去療法を用いて加療した1例 -臓器横断的にニボルマブを施行した自験例48例の検討を踏まえて-. 消 P-337.	JDDW 2020 KOBE, 神戸市; 2020年11月			
2-2-iii. 学会報告/国内学会/一般演題 (査読有)	鈴木尚樹, 森田達也, 中島信久, 神谷浩平, 田上恵太, 本成登貴和, 内藤明美, 中西絵里香	がん診療における意思決定のあり方は地域間で異なるのか?	第18回日本臨床腫瘍学会学術集会, 京都 (WEB開催); 2021年2月			B
2-2-iii. 学会報告/国内学会/一般演題 (査読有)	佐野町友美, 大塚久詔	Efficacy and Eligibility Predictors of Trifluridine/Tipiracil Biweekly Regimen in Advanced Colorectal Cancer. ポスターセッション 下部消化管 (大腸癌) P4-2	第18回日本臨床腫瘍学会学術集会, 京都 (WEB開催); 2021年2月			B
2-2-iii. 学会報告/国内学会/一般演題 (査読有)	齋藤陽介, 神田悟, 鈴木尚樹, 高橋鴻志, 渡邊要, 鈴木修平, 福井忠久, 吉岡孝志	消化器癌高度肝転移例における化学療法成績の検討. ポスターセッション 臓器横断プログラム P33-9	第18回日本臨床腫瘍学会学術集会, 京都 (WEB開催); 2021年2月			
2-2-ii. 学会報告/国内学会/シンポジウム・パネルディスカッション・ワークショップ・教育講演等	中西絵里香, 林邦好, 中島信久, 鈴木尚樹, 森田達也, 神谷浩平, 田上恵太, 本成登貴和, 内藤明美	沖縄・関東・東北の3地域のバケットリストの分類— 人は人生の最期に何を食べたいのか? 飲んでおきたいのか? —	2020年度日本分類学会シンポジウム, 島根; 2021年3月			B
2-3-iii. 学会報告/国内地方会/一般演題 (査読有)	齋藤陽介, 神田悟, 鈴木尚樹, 高橋鴻志, 渡邊要, 鈴木修平, 福井忠久, 吉岡孝志	高度肝転移を有する腎機能障害合併の食道癌に対しmFOLFOD療法が奏功した一例. 研修医プレナリーセッション8.	日本内科学会東北支部主催 第221回東北地方会, 秋田県; 2020年9月			
2-3-iii. 学会報告/国内地方会/一般演題 (査読無)	蛭野千壘, 山川達志, 黒川充朗, 亀谷紫美美, 宮林隆夫, 川並透, 神谷浩平	ALSの「痛み」にトリガーポイント注射が有効であった一例. 神経変性疾患・筋疾患 14	第106回日本神経学会東北地方会, WEB開催; 2021年3月			B
2-4-iii. 学会報告/研究会/一般演題 (査読無)	佐野町友美, 鈴木修平, 富樫敬太, 須貝明日香, 清野静香, 岡田雅司, 吉岡孝志, 山本雅大, 北中千史	* 古典的利尿剤スピロノラクトンががん細胞のサバイビン発現を抑制し非DNA損傷性抗がん剤を化学増感する	実験動物セミナー第31回研究成果発表会, 山形 (山形大学医学部第5講義室); 2020年12月			
2-5. 学会報告/その他	佐野町友美, 鈴木修平, 富樫敬太, 須貝明日香, 清野静香, 岡田雅司, 吉岡孝志, 山本雅大, 北中千史	Spironolactone reduces survivin expression and chemosensitizes cancer cells to non-DNA-damaging anticancer drugs	東北次世代がんプロ養成プラン令和2年度4大学合同セミナー, WEB開催; 2020年12月			
2-5. 学会報告/その他	鈴木修平, 黄木千尋	* 「がん」を様々な視点からみてみよう～細胞、患者さん、そして実際の医療現場で～.	独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業 ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI (研究成果の社会還元・普及事業), 山形市; 2020年12月			
5. 学会等での受賞	鈴木修平	指導教官賞	第117回日本内科学会講演会 医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ2020, 東京; 2020年8月			
5. 学会等での受賞	鈴木修平	最優秀教員	山形大学医学部教員教育賞 (ベストティーチャー賞), 2021年3月			
5. 学会等での受賞	佐野町友美	山形大学研究推進報奨者賞	令和2年度山形大学研究推進報奨規定, 2021年3月			